

である 吾等は、この非階級協定に對して漸進として反對せねばならぬ

且より、このうち極力である反動精神の年動に激賞し、大衆の団結化を促す。然るに大衆は、非階級協定と、協定(但し爲型中)との両者と除くし決定したるものである。従つて爲型三夫を、彼等が、其の言動を、団結化を成す大衆の意見を代表したるものである。其の第十回、其の決意は、皆進したるより動である。吾等は、非階級大衆の意見を、其の協定を、大衆の要求として、右翼精神の前進として、金労協定の交際の統一の方針と稱し、其の非階級協定である。

其の別年協定日協定の掲げる「日本前回のうらみ粉砕」「階級斗争を甚くし天下の統一戦線」「労働者の放逐」「戦争の方針を放棄して金労及対敵としての団結の高揚」と協定強化のたよりを、戦公めななりにはならぬ

全勞協定の合同と大衆を決定せらるる

那國の一切の労働を放逐せらるる

一九三三年七月十日

全國労働者の労働同盟

東洋炭礦労働者同盟
第一回臨時大会

労報第二二八一期

昭和七年七月二十三日

警視總監 藤 沼 庄 平

内務大臣 山本 蓮 雄 殿
長 官 局 長 官 殿
主 社 会 局 長 官 殿
主 社 会 局 長 官 殿
主 社 会 局 長 官 殿
(八廣府縣)

全國労働本部封排同、再建合同運動、情勢を調査し、件

(第六報)

報標記、件、調査し、前報後、状況左記、通

一、合同大會準備委員会側、動向

全勞本部敵對派家派より或る代表者會議、八段報第二回、準備委員会、於て大體其、準備整へ、一月二十三日午前九時、日